

## 第 8 回 市民交流会 第 1 回実行委員会

と き：2007 年 7 月 17 日 19:30～

ところ：市民協働センター 1F

市民参画協働室：今年で 8 回目。12 年度に住民参画まちづくりから 7 年。課題は毎月の市民交流の日はどうつながるか。活き活き元気のあるまちをつくるため今後につなげてほしい。今年は市民協働センターがオープンしたこともあり多くの予算がついた。思い切ったこともできることを踏まえさらにバージョンアップした交流会にしてほしい。

H：前回の反省では参加人数が少ない。交流会のあり方にも意見が出た。

今年はこのことをしたいという意見を出したい。テーマよりこんな風にしたいという意見を聞きたい。それでも去年のとおりにしたいというならその意見も聞きたい。

I：どんな交流会にしたいか、長くかかわったものとして満足はしていないが。

K：テーマで分科会方式に疑問を持ってきた。まちづくりについて話し合いをしたい。

M：どこかを見に行くとか、もう一度亀山を見つめなおす散策とか、講師の話の聞くとか、災害とかの見つめ直しとか身近なテーマを。

F：参加者を増やすには展示を増やし、早い時期から検討する。新しい人に入ってもらおうと活気がでる。今回は早くから集まったので目的を決めてそれに向かってやりたい。

Y：どうするかわからない。たくさんの市民を集めるか、中身を大事にするか。

T：個人で参加して話し合える場である。集める手段で団体に呼びかけるにせよ、個人の意見の出せる交流会でありたい。

S：加太に行ったり知らない所へバスで行くとか、こちらから出かけていったら。

I：世代によって考えが違わないのでは。今日、明日の生活がいっぱいでまちづくりではない。現地に行くのはいい方法だと思う。有名人を呼んでもわからないが予算が無い。

A：市民が何を望んでいるかをまとめたものを実現する話し合いに進めてもいいのでは。

21 日に市民も行政も集まって問題点、要望を出し合って当日に持っていくとか。

最後は実現のための話し合いにして協働につなげたい。

O：坂本の棚田とか盛大にやっているが鈴鹿のやすらぎくんとか、そういうことがまちづくりにはなっていくのでは。

K：やりたいことはあっても難しい。地方の時代といわれる。170 のグループが活動している。亀山の特徴、どういう風に見つけていくか。亀山の個性が大切。発見。

Y：得意の分野を引き出す。交流はつながり、つながりを持つことを発表したり、子どものわらべ歌で全身運動を復活させたい。

I：男女共同参画のアンケートを全市がまとまると面白い。実行計画の素案。自分の想いと顔ぶれが限定されている。広がりをアンケートを基に討論会、輪が広がってくるのでは。

K：人材発掘の場、育てることができなかった。輪を小さくしてしまった。育ての場、人材発掘したい。

K：21 日を絡めた交流会案とか今まで以上のものを

A：意見をまとめる、広く考えるにはアンケートもいい。

K：遊び心を入れたい。食事は不要では。絞っていくから同じテーマになる。テーマを細分化して数多くする。